秈

胡兼切、亦兼切、

〔東雅十三穀蔬〕稲イネ〇中略 倭名鈔に、〇中略秈は青稲白米也、漢語抄にミシロイネといふと註せしは、其實の白きをいひしなり、

〔多識編三穀〕秈、今按占城米、異名占稲、綱目早稲、

〔和爾雅六米穀〕赤米タイタウゴメ紙同、所謂大冬米也、

〔倭訓栞後編十一多〕たうぼし 大唐米ともいふ、秈也といへり、ほしは乾の義にや、

〔庖厨備用倭名本草二穀〕秈米 倭名抄ニ秈米ナシ、多識篇ニ和名ナシ、増補日用食性ニ、ヤキゴメトイヘルハ誤レリ、考本草、其種ハ占城國ヨリ來ル、又名占センヘイ米、粳ニ似テ粒小シ云云、今各處ミナアリ、高仰處ニ倶ニ種ベシ、其熟スルコトハヤシ、六七月ニ收ムベシ、品類モ多シ、赤白二色アリ、粳米ト大同小異、元升井〇向曰、此註ヲミレバ、秈米ハ西國ニ多キタイタウナルベシ、タイタウゴメニ赤白二色アリ、其粒ホソク長シ、味ウスクシテ乾キヤスク、飯ニシテネバリナク、性カロクシテ消シヤスシ、凡唐天竺其外異國ヨリ來ル米ハ、ナリ形氣味トモニ、日本ノタイタウゴメノ如シ、故ニ本草ニ云、處々ノ米ハ滋養之功ナシ、恒ニ飢ニ充ルニヨシ、南方ノ火稲ハ人ヲ補益ストイヘリ、此一種タヾ日本ノ白米ニ同ジカルベシ、日本ノ米ハ粒フトクミジカク、味アツクカワキガタク、飯ニシテネバリアリテ性ヲモシ、本草ニ云粳米ナルベシ、朝鮮ノ米ハスコシ似タリ、唐人初メテ日本ニ來ルモノハ、日本ノ米ハ性ツヨシトテ、湯トリ飯ニシテ用フ、彼是案ズルニ、秈米ハ日本ノタイタウ米也、種テ米多ク收ム、民家ノ食糧タスケ多シ、

〔本朝食鑑一穀〕稲 一種有大唐米者、本是移種于中華之種、俗稱唐乾、其稲繁茂而早熟、故處處種之、雨易腐風易墜、粒小色赤、味不佳、然煮飯倍初、民間足食、但憂米性薄而易饑、一種有鼠米者、海西最多、江東亦儘有、味美有